

# ＜むすぶ手 ひらく輪～神戸の NPO＞

## (7)まちづくり 高齢地域の行く先照らす



「コミュニティかりば」の交流スペースで  
談笑する地域住民たち＝西区狩場台3

冷たい空気が漂う朝方、西区狩場台3、かりばプラザの広場に地域住民が集まり、音楽に合わせて体をひねったり足腰を伸ばしたりストレッチに精を出している。同じプラザ内では、NPO法人「コミュニティかりば」の交流スペースでコーヒーを手に談笑する人の姿もみられた。

ストレッチや交流スペースの運営は、地域活性化、住民の居場所づくりを目指す同法人の事業だ。常連の広田久好さん（76）＝西区狩場台1＝は、参加して地域の交友が広がったといい「もとの仕事が全く違う人たちが集まって本音で話し合えるのが楽しい」と、政治や健康の話題で盛り上がるという。

同法人は2014年に誕生した。活動地域の狩場台や糀台は1982年に入居が始まった「西神ニュータウン」の一角で、阪神・淡路大震災後は仮設住宅に住民が増えた時期もあったが、近年は人口減少と高齢化が加速している。

86年に開業したかりばプラザでも震災後に利用者が減り空き店舗が増えたが、住民団体やボランティア組織などが精力的に活動し、力を合わせて同法人を立ち上げた。

大型家具の移動や庭の手入れなどを有償で請け負う生活支援事業、住民が手作り雑貨などを販売できる「フリマボックス」の設置、自転車の出張修理などに当たる。住民の需要から生まれた取り組みは好評で、年間の利用は計1万人を超える

コミュニティかりばの佐野正明理事長（74）は「居場所をつくるだけでは続かない。ビジネスをする民間企業とボランティアの地域組織の間で、コミュニティービジネスの役割を担っている」と話す。

高齢者だけでなく、昨年夏には子どもたちがものづくりを体験する「かりプラ  
こども広場」を実施するなど子育て世帯も引き込んでいる。近隣の小学校は一時  
期、各学年が1クラスになるまで児童数が減ったが、少しずつ戻っているという。

プラザの刷新に合わせて、交流スペースを拡充できそうといい「『安心して住  
み続けられるまちづくり』をテーマに第2のニュータウンづくりをしている」と  
佐野さん。全国のオールドニュータウンの行く先を照らす存在を目指す。